

京林大だより

No.22



絵:卒業生 熊走君

交流の秋



京都丹波エキスポに出店

10月25日(日)府立丹波自然運動公園で開催された「京都丹波EXP02015in京丹波」の森の手作り体験ブースに林大生が地元の山の恵みをたくさん用意したお店を出しました。



クラフト体験コーナーには、間伐材を薄くスライスしたプレートやドングリ、いろいろな葉っぱがにぎやかに揃っています。自由に組み合わせて世界でひとつのクラフトを作りました。

大好評の丸太椅子です。
間伐材を高さ40センチメートルほどに切った丸太は森の雰囲気たっぷり。
サンダーで磨いてつるつるに仕上げられています。



今年も海外からお客様

ニュージーランドの生徒さんが林業大学校で半日体験学習を行いました。
京丹波町の交流事業の一環で毎年訪問してもらっています。
日本の森林の勉強のあとチェーンソーなど林業機械の実物を見て興味津々の様子でした。



9月29日、林大の前で記念撮影



今月の授業参観



『森林科学実習』

森林にはスギ、ヒノキなど背の高い樹木だけでなく、ツツジのように背の低い木もあります。草もコケも生えています。

天然林と人工林のそれぞれで植生を詳しく調べます。



『森林作業道作設実習1』

森林内に道路を作るとき、一番活躍するのがバックホウです。工事現場で見かけるあの重機を自由に操れるように操作方法を学びます。

誰もが初めてで不慣れですが、繰り返し練習をして上手に操れるようになってきました。



校長室より

『地域活性化フォーラム』

校長 只木良也



昨今、都市型文明社会に限界が見え出し、国も「地方の創生」を言い、「頑張る地方を応援する」としてはいますが、地方創生の大きな柱は、自然を活かし農林漁業を通じた地域の活性化だと思います。

それを受けて、10月7日、東京駅隣接のステーションコンファレンス東京で「地域活性化フォーラム～緑が拓く地域の芽」が開催されました。主催：国土緑化推進機構、共催：毎日新聞社、後援：林野庁のこの集りに、私はパネラーとして招かれ、討議参加してきました。

今井敏林野庁長官も来場ご挨拶、聴衆300人参加の会。基調講演は、元宮城県知事・元総務大臣の益田寛也氏による「地方消滅から地方創生へ」。日本はこのままだと人口減、2100年5千万人、若年少老年多の逆ピラミッド型の年齢構成が予想され、その対策として必要なのが、若い世代が支える地方の活性化という趣旨の解説。

これを受けて、パネラーからの意見・論議。セイホクKK専務取締役・相澤秀郎氏は、地方活性化のための国産材の安定供給体制の必要性を訴え。

北海道中川町産業振興課主任・高橋直樹氏は、生産材に付加価値をつけ、少なく伐って高く売り、長く使ってもらう森林経営を理想し、それを目指す。

「国産材を使った木造住宅を守る会」副会長斉藤章氏は、木を使うことの楽しさ、嬉しさ、木を造っている人への礼、それは日本文化を守ることに通じる、と。

そして私。都市型移入消費社会から循環社会へ復帰の必要性、農山村・里山の再認識こそ、そのための方策、そして、木材だけじゃない、「環境も文化も林産物」と論じてきました。

今回、あんまり面白くない話、ごめんなさい。